

## 令和3年10月1日から令和4年3月31日までの財政の状況

### (1) 財政の動向

令和3年9月末の予算現額は、前年度からの繰越額を含めると805億3,155万1千円となっており、同年12月に行われた令和3年流山市第4回定例会における新型コロナウイルスの3回目ワクチンの接種体制確保に係る経費その他の新型コロナウイルス感染症対策に関する経費、令和4年3月に行われた令和4年流山市第1回定例会におけるGIGAスクール構想における小中学校のネットワーク環境を増強する経費などを新たに計上したことにより、令和4年3月末の予算現額は、909億2,051万3千円となっている。

下期における予算現額を前年の3月末現在のものと比較すると、歳入では、国庫支出金が特別定額給付金に関する事業の終了などにより129億1,587万6千円の減額となった一方で、国の補正予算により地方交付税が16億2,572万6千円の増額となった。

また、歳出においては、新型コロナウイルス感染症対策として行うワクチン接種に関する経費、クリーンセンター焼却施設の溶融炉の修繕の経費などにより、衛生費が38億7,376万6千円増額しているものの、特別定額給付金に関する事業の終了により、民生費が127億7,012万6千円の減額となった。全体で歳入歳出は前年3月末現在と比べて66億810万円の減額となっている。

なお、一般会計と特別会計の令和4年3月末現在の執行状況は(3)収入及び支出の概況のとおりである。

### (2) 市長の財政方針

新型コロナウイルス感染症の影響により、人々の生活様式が大きく変容しているところ、このような状況下にあっても、本市の人口は順調に増加し、20万人を超過したところであり、20万都市として行政需要は高まり続けている。喫緊の課題である児童数・生徒数の増加による学校、保育園等の整備を進めていくとともに、テレワークや在宅勤務等のリモートワークが急速に普及し、日中市内で過ごす市民の割合が高まってきている中で、憩いの空間や心地よい空間のある快適な都市環境を充実させるまちづくりを一層進めていく。

そして、新型コロナウイルス感染症の影響は、いまだ予断を許さ

ぬ状況である。令和3年9月30日に緊急事態宣言が解除されて以降、本市の新型コロナウイルスの感染者の推移は一時減少傾向に転じたものの、オミクロン株の流行により感染が再拡大し、令和4年2月10日には、過去最大となる1日335人の新規感染者が発生した。特に若年層を中心に感染が拡大する中で、社会生活を維持し、子どもの学びの場を守るため、感染者の重症化リスクに適切に対応する点を念頭に対策を進めていくとともに、引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受けた事業者等への経済支援や、生活支援、ワクチンの円滑な接種と医療提供体制の支援等、感染症対策に積極的に取り組み、市民が安心できる社会の早期実現に努めていく。

本市が目指すまちのイメージ「都心から一番近い森のまち」の実現に向け、良質な住環境と快適な都市環境の維持・創出に力を注ぎ、「住んでよかった」、「住んでみたい」と感じてもらえる「住み続ける価値の高いまち」づくりを進めていく。また、費用対効果を念頭に置き、より少ない費用でより市民満足度の高い行政サービスを提供できるよう各種事業の見直しを行い、一層の効率化を図るとともに、後年度の財政負担に配慮しながら、安定的かつ継続的な市民サービスを持続できるよう、健全な財政運営に取り組み、持続可能な財政構造を構築していく。